

第2学年2組 国語科学習指導案

1 単元名 「情報を整理して書く」

2 本 時 平成30年11月30日（火） 第1校時 第2学年2組教室

3 本時の指導観

生徒は前時まで、「枕草子」や「徒然草」、「平家物語」の古典教材に触れている。次第に歴史的仮名遣いや、語句の省略など、古典の表現に慣れてきている。また、「短歌の世界・短歌十首」の学習において、情報を整理することによって内容がわかりやすくなることを学習している。

そこで本時では、今までに学んできたことを使い、古典の応用問題に取り組むことができるようにする。そのために、全国学力テストの古典作品の過去問を使い、問題に慣れさせるとともに、情報をきちんと整理すれば応用問題でも解くことができることを実感させたい。

4 主 眼

情報を整理することで、話のあらすじを書くことができる。

5 どのような思考ツールを活用して、生徒の考えを広げたり深めたりするかの工夫点(本年度の重点項目)

マトリックス表を用いることで、「誰が」「何を」「どうした」という情報を整理して、あらすじを書く際の手助けになるようにする。

6 準 備 全国学力テスト 学習プリント 原稿用紙

7 展 開

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)
つかむ	1 本時の学習内容を確認する。 (1) 古典の学習を行ってきたことを確認して、全国学力テストの問題に挑戦することを知る。	○書くことが苦手な生徒の意欲が下がらないようにするために、きちんと解き方を伝えることを確認する。 ○来年度への見通しをもたせる。	
	めあて 情報を整理して、全国学力テストの問題を解いてみよう。		
さぐる	2 問題の内容を確認して、解くための準備をする。 (1) 何を問われているのかを全員で確認する。 ・教師の音読を聞く。 ・登場人物を確認する。 (2) あらすじを書くために、情報を整理する。 ・「誰が」「何を」「どうした」 (3) 班で交流をする。	○同じ登場人物が重複しないようにするために、主な登場人物の人数を知らせる。 ○情報を整理しやすくするために、マトリックス表を用いる。 ○書くのが苦手な生徒のために、班で交流をして自分とは異なる見方を与える。	
深める	3 まとめた表をもとに、あらすじを書くのに必要な情報を選ぶ。 (1) 話の内容を的確に伝えるために、どの情報があると話がよく分かるかを考える。	○適切な情報を選ぶことができるようにするために、話の始まりから終わりまでを説明できる情報を選ぶように伝える。	
まとめる	4 問題を解いてみる。 (1) 選んだ情報をもとに、あらすじを指定された字数で書いてみる。		・話の展開に即して決められた字数内であらすじを書くことができる。(原稿用紙)【書】
	国司の長男殿のすばらしい夢を聞いたひきのまきひとは、夢うらないの女に頼んで夢を横取りし、大臣になった。夢を取られた国司の長男殿は大臣になれなかった。		

【授業の実際】

○つかむ段階について（既習事項とのズレ・隔たりから内面に生じた問い・課題を設定する場面）

つかむ段階においては、全国学力調査を受けるという来年度の見通しをもたせた上で、今年度の問題を解いてみるという課題を設定した。生徒は「短歌の世界・短歌十首」において、「いつ、どこで、誰が、何を、どうした」という情報を整理することで、短歌の内容が想像しやすくなることを学習している。そこで問題文を読んでそのあらすじを指定された字数で書くという全国学力調査の今年度の問題を提示し、このような一見難しそうな問題も既習事項を用いることによって解くことができることを確認した。

○さぐる～深める段階について（思考ツールを活用して自己内対話をする場面）

教師の問題文の範読を聞いたのちに、マトリックスを活用して「誰が、何を、どうした（どうなった）」のかを、個別に問題文より読み取りまとめた。生徒は与えられた時間の間、真剣に問題文と向き合いマトリックスにまとめていた。

その後、班にして情報共有を行った。ここで、個別にしているときに全く書けていなかった生徒も、友達から教えてもらい、一つだけでも書くことができていた。また、意見が割れて議論している班もあった。班での情報共有をしたのちに、黒板に代表が記述をした。



▲ 生徒のワークシート

○まとめる段階について（自分の言葉でまとめる場面）

マトリックスをもとに、今回の課題であるあらすじをまとめる作業を行った。マトリックスにいくつかある情報から、あらすじに必要な情報を時間軸にしたがって書く必要があった。時間軸のことを説明していなかったため、必要な情報は選べていても時間軸通りに情報を書けていない生徒がいた。



▲ 班での情報共有の様子

【授業の考察】

来年度の見通しをもたせたことによって、解いてみたいと意欲を持つ生徒がいた。また、今年度の三年生の正答率が悪かったということも、生徒の意欲につながったように感じる。

さぐる段階において、個別にマトリックスを書いていく作業は大半の生徒ができていた。最初戸惑っていた生徒も、少し助言をすることで書くことができていた。マトリックスに何を問題文から読み取ればよいか書かれているので、比較的取り組みやすかったように感じる。その後の班活動もひつつしか情報を読み取れなかった生徒に対して、周りの生徒が問題文のこの部分に書かれてあると助言を行うことで、情報をまとめることができていた。また、同じ人物の同じ行動に対して結果が違うように読み取っていた班では、どちらが正しいのかを議論する姿も見られた。

黒板には各班より、それぞれの登場人物の行動においてあらすじに必要なだと考えられる情報が整理された。同じ人物の行動でも、表現の仕方が違うことを確認した。

まとめる段階において、実際に課題であるあらすじを指定された字数で書いてみた。生徒はマトリックスをもとに、必要な情報を選んで書いていた。マトリックスの情報を上から下につなげて書けば、文になるという構造が幸いして、大抵の生徒は文を書くことができていた。ただ、必要な情報は正しく選べているのだが、時間軸通りに書けていない生徒がいた。これは、授業の最初にあらすじを書く際に必要な「時間軸の通りに書く」ということを、全体で確認していなかったからだと考える。

【成果と課題】（授業整理会およびチェックシートから明らかになったこと）

（成果）☆全国学力調査の書く問題の解き方を既習事項とつなげて授業で行うことにより、生徒の書く問題への苦手意識が若干低下したように感じた。

☆マトリックスを用いて情報を整理することにより、問題文から何を読み取ればよいか明確になり、できたという達成感を生徒に感じさせることができた。

（課題）★最後に問題を解いているときに、時間軸の通りに情報を書けていない生徒がいたので、授業の最初に、あらすじを書くときに必要なことを確認しておく必要があったと考える。

★マトリックスに時間軸も書いておくことによって、さらにあらすじが書きやすくなるのではないかと考える。